

Library News



京教図書館 News

2009

12

今月のトピック

●私のすすめるこの1冊

今月は、理学科・谷口慶祐先生に

『「邪馬台国」はなかった』(古田武彦著)をご紹介します。

●図書館からのお知らせ 教科書展が終わりました・他

●論のくちび理のむすび(京都教育大学の紀要論文をご紹介します)

今月は、教育学科 榊原先生の論文です。



新型インフルエンザ感染防止にご協力を!

図書館の入口に消毒用エタノールを設置していますので、
入館の際には必ず手を消毒していただくようご協力お願いいたします。

<図書館開館スケジュール>

平日は9:00~21:00、土曜は9:00~17:00

※毎月第1水曜日は館内整理のため休館です

12

日	月	火	水	木	金	土
		1	2 整	3	4	5
		~21:00	休館	~21:00	~21:00	休館
6	7	8	9	10	11	12
休館	~21:00	~21:00	~21:00	~21:00	~21:00	~17:00
13	14	15	16	17	18	19
休館	~21:00	~21:00	~21:00	~21:00	~21:00	~17:00
20	21	22	23 祝	24	25	26
休館	~21:00	~21:00	休館	~17:00	~12:00	休館
27	28	29	30	31		
休館	休館	休館	休館	休館		

※12月5日(土)は推薦入試のため休館です
※12月25日(金)の開館時間は12時までです

1

日	SUN	月	MON	火	TUE	水	WED	木	THU	金	FRI	土	SAT
										1 祝	2		
										休館	休館		
3	4	5	6 整	7	8	9							
休館	休館	~17:00	休館									~17:00	
10	11 祝	12	13	14	15	16							
休館	休館				休館	休館							
17	18	19	20	21	22	23							
休館						~17:00						~17:00	
24	25	26	27	28	29	30							
休館						~17:00						~17:00	
31													
休館													

※1月15日(金)・16日(土)はセンター試験のため休館です

私のすすめるこの1冊

谷口慶祐(理学科 講師)

古田武彦著 『「邪馬台国」はなかった』

邪馬台国については謎が多く、専門家だけでなくアマチュア考古学ファンをも魅了し続け、様々な説が出されています。今回紹介するこの本も、そのような説の1つではありますが、客観的な事実をひとつひとつ積み重ねていくその姿勢は、一読に値するものだと思います。

邪馬台国は、正確には邪馬一国という国名で魏志倭人伝に登場しています。従来からの説では、当時の「台」の字と「一」の字（いずれも元の字は当用漢字ではありません）は非常によく似ていたため誤記されたもので、本当は邪馬台国であるとしています。このことは江戸時代から当然のこととして受け入れられてきたことで、大和朝廷との関係を意識するあまり、初めから「やまと」に近い名前であればならないとする、強い先入観の影響も考慮しなければならないでしょう。そこで古田氏は倭人伝だけでなく魏志全体の中で「台」の字と「一」の字が入れ替わって誤記されている他の例を探しました。この作業をそれまでだれもしてこなかったからです。その結果、他にそのような例は発見されませんでした。また「台」の字は、当時は中国皇帝に関係する地名や施設に使用される権威を持った字で、中国が周辺地域の国名や人名に、当時あまりよい意味を持たないとされた字をわざわざ用いていることを考えると、「台」の字が日本の国名に用いられた可能性はないとも述べています。魏志が公文書で中国皇帝に捧げられたものであることを考えると、ただ似ているからというだけで誤記としてよいのかという疑問もあります。そこで表題の『「邪馬台国」はなかった』となります。つまりあったのは邪馬一国なのです。

この国の所在地に関しては、近畿説と九州説にほぼ二分されます。確定しない主な理由は、魏志倭人伝に書かれた邪馬一国までの道程をその通りにたどると、九州のはるか南の太平洋上になってしまうということです。そこで、南は東の誤記であるとして、東に進むとちょうど近畿地方に当てはめるというものです。ここでも誤字が重要な鍵となっています。しかし古田氏は魏志倭人伝の記述には誤記などなく、そのまま解釈すべきであるという立場をとりました。当時の距離の単位では1里は4kmではなく400mであったことを実証した上で、この距離換算で道程を読み解くと、全く矛盾なく博多郊外になるとしています。したがってこの本を読むと、客観的事実を積み重ねた論理的な結論として、卑弥呼のいた邪馬一国は博多郊外に存在したと考えざるを得ないこととなります。

私自身は関西人ですし、最近の遺跡発掘のニュースを読むと近畿説をとりたところですが、今回紹介したこの本の説得力にはなかなか抗しきれません。

『「邪馬台国」はなかった』朝日文庫 古田武彦著 朝日新聞社, ISBN:4-02-260741-6

※紹介された本は文庫本ですが、京都教育大学の附属図書館に単行本が所蔵されていますので、そちらをご利用下さい。

「邪馬台国」はなかった： 解読された倭人伝の謎 / 古田武彦著

1971 配置場所:書庫3階 請求記号:210.1 || F 94

★1★ 第14回教科書展 終わりました

今年度は「中等教育用教科書(理科編) —中等教科書に見る天文教育の変遷—」と題し、11月5日から25日までの期間開催しました。今年は、世界天文年にあたり、世界天文年2009の公認イベントとしても行いました。

期間中は、学生をはじめ地域の方々、教職員など約300名の方々が来館され、明治・大正時代の教科書やガリレオ式望遠鏡など興味深く見ておられました。

今回の展示に際しては、筑波大学、神戸大学、和歌山大学からも貴重な教科書をお借りすることができ、感謝申し上げます。また、本学理学科中野先生中心にご協力いただき、厚く感謝申し上げます。



★2★ 「うた」と「おはなし」の会 開催について

今年も「冬」や「クリスマス」をテーマにして楽しいお話や歌、遊びを企画しています。エプロンシアターや手遊びなど親子で一緒に楽しみましょう。



日時 : 12月20日(日) 11:00~12:00

場所 : 附属図書館2階 視聴覚室

対象 : 幼児(3~6歳くらい)と保護者

0~2歳児さんも大歓迎!

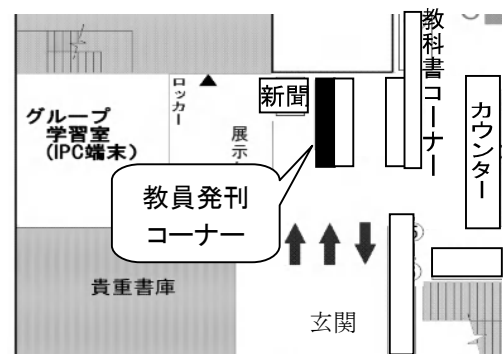
※無料です

★3★ 教員発刊コーナーが新しくなりました

京都教育大学の先生方が執筆された図書などを集めた「教員発刊コーナー」をリニューアルしました。

以前は教科書コーナーの裏側にありましたが、今回新聞コーナーの右側に場所を移動し、学科ごとに図書を整理して、見出しも新しいものに変えました。

シラバスで読むだけでなく、先生方の研究分野やその成果を直接手にとってご覧頂けるコーナーとなっております。ぜひ足を止めてみてください!



<教員発刊コーナーについての注意事項>

教員発刊コーナーに配置している図書は、より多くの方にご覧頂くために、貸出不可となっております。館内でのみご利用下さい。

ただし、2冊以上ある場合は、1冊を開架南館に配置し、貸出可にしています。OPACでお調べ下さい。

★4★ 論文検索・収集法講座をお好きな時間に受けられます

実際にデータベースを使いながら、雑誌論文の集め方をわかりやすく教えます!

皆様の希望日時に合わせて開催しておりますので、お気軽にお申し込み下さい。

所要時間: 約30分(実際に館内で雑誌を探す検索実習オプションをつけると、約60分)

集合場所: 附属図書館1階カウンター

申込方法: 図書館内に設置した申込用紙をカウンターに提出するか、メールにてご連絡下さい。

library@kyokyo-u.ac.jp

★原則的に平日の9:00~17:00に実施。それ以外の時間を希望する場合は、ご相談下さい

★担当者の不在等により希望日時に実施できない場合がありますのでご了承下さい

「健康な学校」と学校経営論のリデザイン

いつの時代も教育に関する議論はにぎやかです。それは教育に託す人々の強い願いを示すものでもありますが、これがあまりに激しいと、社会の様々な問題を「教育改革」で一掃しようということにもなりかねません。それは基本的に無理な注文ですし、にもかかわらず「教育がカギを握っている」と発言するのは、遠い将来にしか結果の出ない教育効果の特性に乗じた、無責任なことですらあります。

わたしの見るところ、少なくない学校は現在こうした社会的圧力に押され、だからこそ年中、教育改革という言葉に踊らされているようです。ところが、改革は必ずしも良い結果を導くわけではなく、「変えなかった方が良かった」場合すら珍しくはありません。

こうした関心からこの論文では、改革論ではなくそれぞれの学校の状況に応じた緩やかな改善や自生的な開発という発想が有効なこと、そして、生徒にとって学びと生活の場、また教職員にとってやりがいと意欲の持てる職場として包括的に学校を捉えるために、「健康」概念が有効なことを整理しています。日本ではともすれば、教育内容や方法を指して「学校を良くする」と言う場合が多いのですが、ドイツではこれらと合わせて、教職員の働き方や環境としての学校という着眼がなされていること、これらを束ねる概念が「健康」であることを事例から明らかにしました。

「健康な学校」の考え方は、各学校の自主性・自律性を上げ、さらには「教育の質」保証に繋がる可能性を持っていることも論文で示しています。だからこそ今日、国家的な一律の公教育のあり方と地域に応じた多様な公教育のあり方のバランス、あるいは両者の関係が大きく問われている、と見ることもできるでしょう。

全文は、第115号(平成21年9月)に掲載されています。

後日、<http://lib1.kyokyo-u.ac.jp/kivou/kivouindex.html>(京都教育大学紀要)に掲載される予定です。



ちょっとブレイク
12月の言葉

「クリスマス」

12月といえば子どもたちも楽しみにしているクリスマスですね。児童書コーナーにはクリスマスや冬に関する子ども向けの本がありますので、ぜひ読み聞かせなどにご活用下さい。

★キーワードにひと工夫★

冬に関する子ども向けの絵本を探すのにも、タイトルの単語は「冬」「ふゆ」「雪」「ゆき」「サンタクロース」「サンタ」「くりすます」など、さまざまです。OPAC(蔵書検索システム)でいろいろと試してみてください。

※タイトルの読み仮名が登録されている場合は、カタカナで単語ごとに検索できます。

●蔵書検索 OPAC はこちらから

<http://tosh02.kyokyo-u.ac.jp/>

●京都教育大学附属図書館ホームページはこちらから

<http://lib1.kyokyo-u.ac.jp/>

京教図書館 News No. 110 (2009年12月号)

編集発行：京都教育大学附属図書館

発行日：平成21年12月1日

内容に関するお問い合わせ先：

附属図書館 (内線 8179)